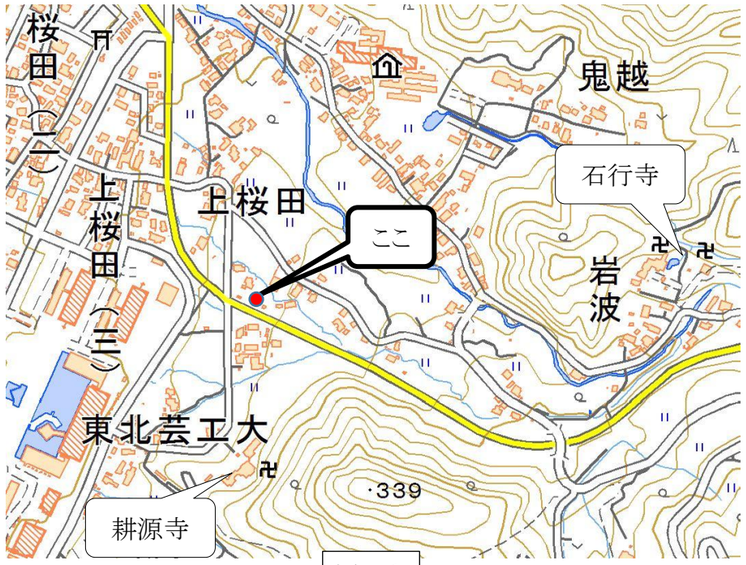
～吾が故郷は上桜田地区の
寺社シリーズ　Ｎｏ３～
「　太　子　殿　」

回覧④

今回は、「太子殿」についてです。

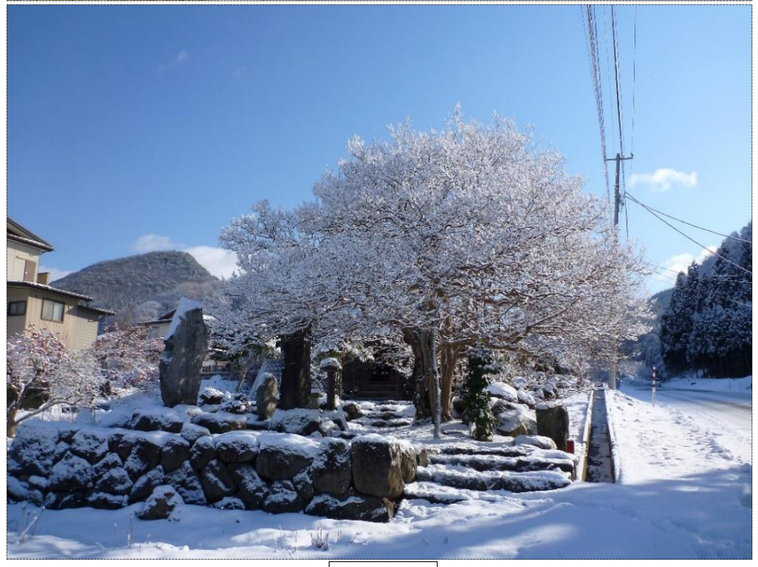
場所は、県道 53 号線沿い図－1の「ここ」の所です。聖徳太子をお祀(まつ)りしているお堂で、本町内会の舟越京次さん家が管理しています。

お堂の全体の姿は図－2のとおりです。



図－1

図－2



図－3

1．境内

境内には、「庚申供養塔」、「百万遍塔」、「三界萬霊」、「馬頭観世音」と刻字された石碑と六地蔵塔などが建立されており、神仏習合の領域となっています。境内入り口には、サルスベリの樹木があり、幹は太く大きく羽を広げたような形をして、樹勢盛ん成りては枝先が地べたに着くようになっています。夏は図－3上のとおりの赤紫色の花で（カラー印刷でなくてご免！）すばらしくなります。真冬は粉雪が付いて同図下のようになります。霧氷（着氷）の姿も素晴らしいです。

根本は、先端が朽ちた老木と若々しい幹が絡み合っており、当町内会の老若男女の勢いを象徴しています。

2．内部

2016(平成 28)年 3 月 15 日
上桜田町内会長

図－4上は、2013(平成 25)年元旦にお参りに行った時に撮影した内部写真です。元旦は前出舟越さんのご厚意で扉を開けており、お参りできます。特徴的なものを一つ紹介します。同図下のとおりの絵馬が奉納されています。絵には「　奉納　明治三十三年三月二十二日　蘭山□□（絵師？）　願主　舩越(ママ)□□　佐藤□□□　」と記載されています。

なお、聖徳太子の命日は、一般的には「上宮聖徳法王帝説」に依り、「推古天皇 30（622）年 2 月 22 日」との事です。

図－4

３．歴史

縁起など詳しい事は分かりませんが、舟越京次さん家から聞き取りした事や私が確認した事の要点を記述してみます。

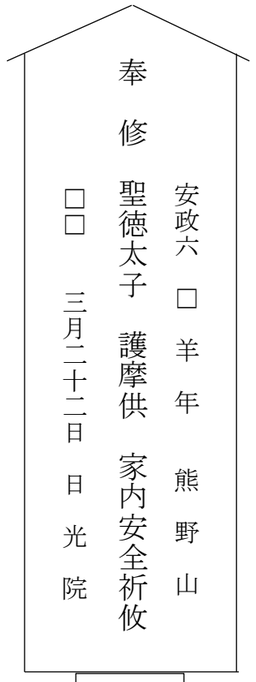
（１）近年

本殿は明治 25(1892)年７月９日に消失したものの翌年には再建しています。この再建を記念して「聖徳本宮再建落成記奉額」と書かれた俳句が奉納されています。その後の昭和 44(1969)年には、県道 53 号線の新設工事に伴い、南側より現在地に 10 数ｍほど移転しています。

（２）遡って

また、内部には、図－５のとおりの、木札（碑伝（ひで））が打ってあります。ちょっと気になるのが「熊野山」という文字です。熊野信仰系（熊野山伏？）の広がりの影響が読み取れます。また「日光院」に所属していたと思われる修験者（山伏？）が、ここで護摩供養の祈祷を行った印でしょうか。

さて、図－６との関連です。当図は、今後「寺社シリーズ　Ｎｏ５」として紹介する予定の地蔵堂の内部に掲示されている古絵図です。元文五（1740）年に描いたとあります。左方向が北です。左側に「太子堂」（今の太子殿）の文字と、その左隣に耕源寺、さらには、当図の右端にも耕源寺（現在の場所とほぼ同じ）の文字が書かれています。耕源寺の当時の移転騒動（陳情）については、機会があれば記述する事とし、今は、太子殿（太子堂）に焦点を当てます。すると、同じ境内にそれも隣接して、寺と一体となって 1740 年頃には立派なお堂があったのです。

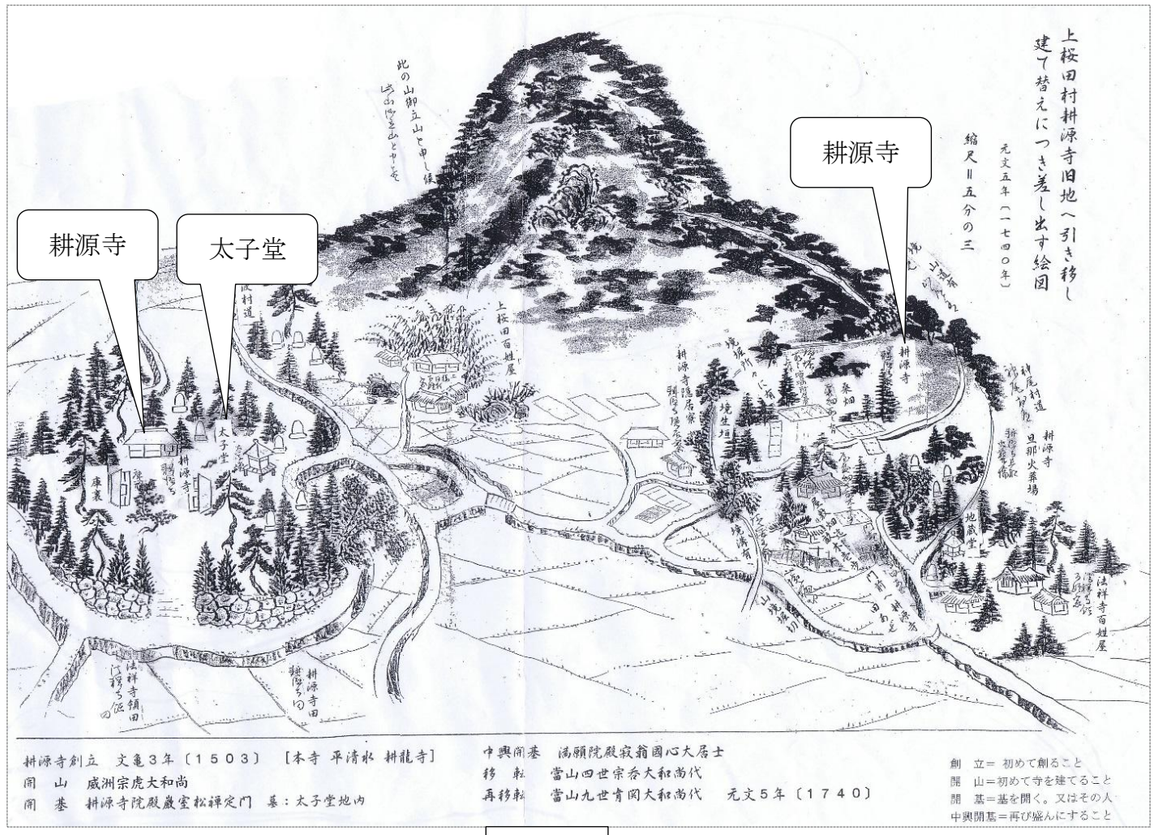


図－５

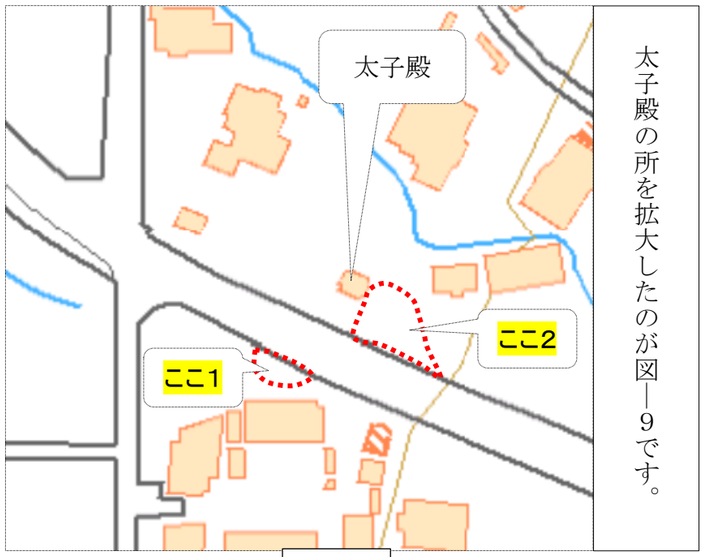
（３）今に戻って

そこで、現在も耕源寺の存在に係る名残を紹介します。

図－７の「ここ１」には、図－８のとおりの墓石があります。



図－６



太子殿の所を拡大したのが図－９です。

図－７

また、図－９は、図－７の「ここ２」の状況で、太子殿の後方（東南）にある神仏に係る石碑群です。中央付近の三角錐類似の石には、

図－８

頭部に卍、その下には「當寺開基□□□・・・」の文字が刻まれており、耕源寺の跡地を表すというが、風化している事に加えて難字であり、解読出来ていません。

聖徳太子を祀るというそれ自体は神様の信仰領域にあります。前記のとおり、この地は今も神仏習合のそのままの姿を留めています。

図－９

【編集後記】

- 聖徳太子を祀っているお堂は滝山地区では珍しいのではないかと思っています。
- 特にサルスベリの樹木は、写真愛好家の格好のターゲットになっているようです。四季折々注目して見てください。
- 聞き取りにご協力を賜った舟越京次さんご家族に感謝いたします。

以上

（上桜田町内会　総務担当　大沼香）